

緊急学習会

7・13 社会的養護としての里親のあり方

- 「社会的養護のあり方に関する専門委員会」に私たち里親が望むもの -

平成15年4月、厚生労働省は、社会的養護のあり方に関する専門委員会（以下「あり方専門委員会」）を設置し、親が育てられない子どもを育てる社会的養護のあり方について検討することにしました。児童養護施設や乳児院など、施設に偏っていたこれまでの社会的養護を見直し、里親など家庭養護へとシフトして行くのであれば、里親だけでなく家庭で暮らせない子どもたちにとっても大変に歓迎すべきことです。

5月23日に「あり方専門委員会」の委員が公表され、里親代表として庄司順一氏が選ばれました。庄司順一氏は青山学院大学文学部教授の職にあるとともに、川崎市の里親会「川崎市あゆみの会」の副会長を勤められています。ご自身も委託された子どもを養育されている最中であり、まさに里親代表として委員に相応しい方だと思います。

今までの里親制度は、子どもがいない家庭が子どもをあずかり育てる、いわば養子縁組の手段として捉えられていました。里親にも研修などの義務はなく、養育技術の研鑽も個人の努力に任されていました。しかし、昨年の里親制度の改正、今回の「あり方専門委員会」などで、里親も社会的養護の一翼を担うことが求められるようになります。今までの個人的養護観による子育てだけではなく、里親も社会的養護の自覚の元に、子どもを育てる必要があります。

そこで、「あり方専門委員会」委員の庄司順一氏をお招きし、「社会的養護としての里親のあり方」についてお話を伺いたいと考えました。また、私たち里親と意見を交換し、その意見を「あり方専門委員会」に伝えていただきたいと思えます。

プログラム 基調講演 「社会的養護としての里親のあり方とは」...庄司順一氏（青山学院大学文学部教授）
パネルディスカッション - 「社会的養護のあり方に関する専門委員会」に私たち里親が望むもの -
コーディネーター 庄司順一氏
パネラー 木ノ内博道氏（専門里親...千葉県里親会会長）
西川公明氏（養育里親...川崎市あゆみの会会長）
坂本洋子氏（ファミリーホーム...東京都養育家庭連絡会）
未定（障害児を養育している里親...交渉中）

主催 東京都養育家庭連絡会、川崎市あゆみの会、横浜市愛児会、千葉県里親会、長野県里親会連合会
埼玉県里親会、山梨県きずな会、千葉市ひまわり会 6月11日現在

協賛 アン基金 PROJECT

会場 神楽坂エミール 3F うめ・まつ
東京都新宿区赤城元町 1-3 03-3256-3251
地下鉄東西線神楽坂駅下車2分

日時 2003年7月13日（日）午後1時～5時

会費 500円

申込み 先着100名

保育 20名 保育の必要な方は、事前にメール・FAXのいずれかにてお申し込みください。
（住所・電話番号・親の名前・保育希望のお子さんの名前と年齢を明記してください）

E-mail GEE04236@nifty.com FAX 03-3205-7158（東京都養育家庭支援センター気付）

問合せ 事務局 東京都養育家庭連絡会 GEE04236@nifty.com Tel 080-3127-9478



「あり方専門委員会」への要望がある方は、文書・メールでお寄せ下さい。事務局でとりまとめます。

講師・パネラー プロフィール

庄司順一氏 青山学院大学文学部教授	
略 歴	1992～1999 恩賜財団母子愛育会日本総合愛育研究所（現、日本子ども家庭総合研究所）主任研究員・企画室長・研究企画・情報部長 1999～ 青山学院大学文学部教授
研究テーマ	乳幼児の発達と臨床。具体的には、新生児反射の発達、子どもの気質、母子関係、乳児保育、乳児院における養育のあり方、里親養育、育児不安、子ども虐待、早期教育の影響などが研究テーマである。保育、教育、心理のみならず、保健、福祉をも視野に入れて、子ども、子育てを考えていきたい。
論文、著作（代表的なもの）	2001年 子ども虐待の理解と対応（フレーベル館） 2001年 ソーシャルワーカーのための心理学 有斐閣（共編著） 2000年 乳児保育（第8版）南山堂（共著）
木ノ内博道氏 千葉県里親会会長	
専門里親	昨年認定された専門里親からの発言
西川公明氏 川崎市あゆみの会会長	
養育里親	長年の養育里親経験者からの発言
坂本洋子氏 東京都養育家庭連絡会	
	ファミリーホーム、「ぶどうの木」出版 ファミリーホーム（里親型グループホームの立場から発言）
未定	
	障害児里親（近隣の障害児を育てている里親） 障害児の養育、ノーマライゼーションの観点からの発言

社会的養護のあり方に関する専門委員会委員名簿

委員名	役 職
安達 孝彦	松江赤十字乳児院 院長
奥山 真紀子	国立成育医療センターこころの診療部長
加賀美 尤祥	児童養護施設山梨立正光生園 常務理事 日本社会事業大学 社会福祉学部 教授
兜森 和夫	母子生活支援施設 白百合ホーム 施設長
才村 真理	帝塚山大学 人文科学部 教授
坂本 正子	大阪府健康福祉部児童家庭室 家庭支援課課長補佐
庄司 順一	青山学院大学 文学部 教授
高橋 利一	児童養護施設至誠学園 常務理事 法政大学 現代福祉学部 教授
武田 陽一	自立援助ホーム 憩いの家 施設長
徳地 昭男	児童自立支援施設 国立武蔵野学院 院長
中田 浩	児童養護施設 聖家族の家 施設長
西澤 哲	大阪大学大学院 人間科学研究科 助教授
野田 正人	立命館大学 産業社会学部 教授
松原 康雄	明治学院大学社会学部 教授
四方 輝子	子どもの虹情報研修センター 顧問

2000/05/23 共同通信ニュース速報
養護施設や里親制度見直し 厚労省が専門委員会初会合

厚生労働省は二十三日、虐待を受けた子供を受け入れる施設体制や里親制度などを検討する「社会的養護の在り方に関する専門委員会」の初会合を開いた。

九月をめどに報告書をまとめ、すでに議論が進んでいる「児童虐待防止に関する専門委員会」での結論と併せ、今年予定されている児童虐待防止法の見直しに反映させる方針。

初会合では児童養護施設に新しく入所する子供の半数近くが虐待経験を持っている実態を踏まえ、家庭的な個別ケアがしやすい施設の小規模化を検討することを確認。

職員の質的、量的な確保や通所施設など地域支援機能の強化についても協議することを決めた。

また、里親支援の強化や十八歳、十九歳で施設を出て自立しなければならない子供への支援体制なども話し合う方針。

現行の児童虐待防止法は二 年十一月に施行。「親権」の制限や家庭への立ち入り調査が盛り込まれた。三年後の今年が見直し時期に当たり、施設入所をめぐる司法関与などを中心に議論が進められている。